

各教科等を貫く「国語力」を育てる

佐賀大学文化教育学部附属中学校

1 各教科等の授業で必要とされる「国語力」

各教科等の授業は、言語や多様な学習活動を通して行われる。中でも言語の果たす役割は大きく、言語を媒介として学習内容に関する知識や理解、技能、表現力、思考力、判断力、態度などの多くを育成している。

本校ではこれまでの研究において、各教科等を貫いて育成すべき言語能力に「情報編集力」と「コミュニケーション力」があることを帰納的に明らかにした（注1）。

○情報編集力

目的に応じて必要となる情報を集め、自らの視点で再構成し、表現しようとする力。また、このような活動を推進する思考力。これらを活用することによって自ら表現する。

○コミュニケーション力

他者と交流し情報を交換する力。また、情報発信の立場まで含めて伝えたり理解したりする力。文化的作品を作り出したり、新しい世界を開き自己実現させたりすることに役立てることができる力。

番号	要素名	番号	要素名
①	説明する	⑪	情報を吟味する
②	話し合う	⑫	引用する
③	図解表現する	⑬	要約する
④	報告する	⑭	記録する
⑤	企画する	⑮	比較する
⑥	鑑賞する	⑯	多面的にみる 多角的にみる
⑦	資料を作る	⑰	分類する
⑧	共感的に聞く 批判的に聞く	⑱	推論する
⑨	要点を聞く	⑲	関連づける 構造化する
⑩	振り返りをする	⑳	具体化する 抽象化する

【資料1】国語力の20要素

また、「輝きの時間」を中核として、各教科等の国語力の育成に関して指導内容の連携を図るとともに、各教科等では独自の国語力を整理し、それを育てたり生かしたりする工夫を行っている。

さらに研究を進展させるために、取り出したこの二つの言語能力を「国語力」（注2）としてとらえ直し、ここを基盤として、各教科等の違いを超えて育てるべき具体的な国語力として明らかにするとともに、各教科等の授業を通して、国語力を育成することを目的として研究を進めた。

また、各教科等を貫く基礎学力としての国語力を整理し、特設した「輝きの時間」や各教科等の授業で意図的に指導したり、学習したことを生かしたりすることで、各教科等の授業の質や生徒の学習の質を上げることが研究の目的とした。

2 基礎学力としての「国語力」の整理

生徒の実態を踏まえ、本校で育てる「国語力の要素」を次の方法で洗い出した。

①各教科担当者が授業場面で必要とする国語力の洗い出し。

②各教科等の学習指導要領で育成が求められている国語力（「技能・表現」「思考・判断」に関わる部分）の洗い出し。

このような作業を通して、当初六〇程度の要素を洗い出した。それらを「情報編集力」「コミュニケーション力」の観点や、この二つの力を機能させる際に必要な「思考力」「学び方」「メディアリテラシー」の観点も加え、相互の関連を考慮して二〇の要素に整理した（P23資料1）。

なお、二〇という数は、各要素を取り立てて指導した場合、一年間で確実に指導できる要素数ということで、便宜的に設定した。

整理した「国語力の二〇要素」を取り立てた指導を、本校では総合的な学習の時間の中に設けた「輝きの時間」で行っている。

3 「輝きの時間」の実際

（1）「輝きの時間」年間指導計画

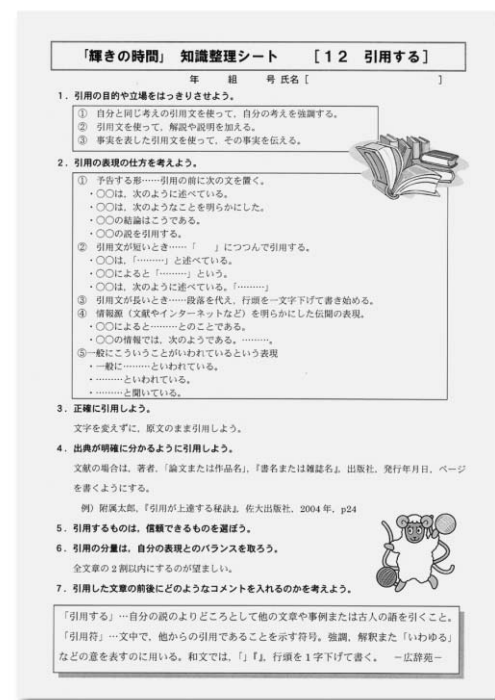
本校では、「輝きの時間」の目的を「生徒の自律と協働による学びや自己表現力を育むために、各教科等で共通して育成すべき国語力を学習する時間」としている。本年度は、第一学年で四〇時間、第二学年で二五時間、第三学年で二五時間を実施する予定である。

年間指導計画の作成では、各教科等の年間指導計画の各月や各単元ごとに必要としたり育てたりする国語力としてリストアップした要素を基礎資料とし、各学年ごとに重点指導要素を設定した。例えば、第一学年では、「二〇要素を指導するものの、特に、『①説明する』『②話し合う』『④報告する』『⑨要点を聞く』『⑫引用する』『⑭記録する』『⑮比較する』『⑳具体化する・抽象化する』を重点的に指導する」としている。

（2）到達目標としての評価規準

具体的にどのような能力を育てようとしているのかが明確でなければ、取り上げた国語力の要素を指導するための授業構想を行うことは難しい。そこで、二〇要素のそれぞれについて、各学年の系統性を考えて要素ごとの評価規準を作成した。

しかし、各学年ごとの系統性を考慮して評価規準を設定したものの、取り扱う教材によって評価規準が揺れたり、評価規準の妥当性そのものの再検討を迫られたりした。そのため、学年ごとに系統化を図っていた評価規準を三年間で指導するオープン



【資料2】知識整理シート

④ 授業の概要

- ウ 四種類の図解表現の特徴を理解している。
- 1 めあてを協議してもつ。
- 2 図解表現の基本的ルールやパターンを知る。
- 3 課題を選択し、グループで図解表現する。
- 4 発表会を開き、それぞれの工夫点を交流する。
- 5 図解表現のポイントを個別に三か条にまとめる。

4 各教科の学習で育てる教科独自の国語力の整理と活用

なものにとらえ直すこととした。生徒には到達目標を「知識整理シート」(資料2)としてまとめたものを示した。このシートには、それぞれの要素に関する「知識」や「活用の仕方」をまとめている。

(3) 実践例 (第三学年)

- ① 題材名「わかりやすく表現してみよう」(全三時間)
- ② 教材 ワークシート、知識整理シート
- ③ 評価規準
 - ア 図解表現の良さに気づき、文字情報を図解して表そうとしている。
 - イ 得た情報を再構成し、図や記号、言葉を用いて図解表現している。

このように、「国語力の二〇要素」を中核として、各教科において「授業で育てる国語力」「授業に生かす国語力」を整理し、各教科独自の国語力として整理した。また、国語科でも「国語力の二〇要素」を参照しながら、指導内容の検討を行った。国語科で育てる言語能力を洗い出し、「国語科だけが指導すべき内容」「二部を『輝きの時間』で指導し、他の部分を国語科が指導すべき内容」「輝きの時間」と国語科の両方で指導すべき内容」の三つの観点から整理するとともに、「言語知識」および「言語運用・言語操作能力」「自己学習力」の観点からもこれを整理した。

5 成果と展望

「輝きの時間」を中核として、整理した各教科等を貫く基礎学力として「国語力の二〇要素」を取り立てて指導するとともに、各教科等の指導に生かすべく実践研究を行っている。何よりも、国語力育成の観点を柱とした教育課程を編成したことで、生徒の学びが促進され、自己表現が高まったことが成果としてあげられる。今後は、教科共通の国語力の見直しや教科独自の国語力をさらに整理し、さらに授業の質や生徒の学習の質を上げることが目指したい。

- (注1) 佐賀大学文化教育学部附属中学校『研究紀要 第二二〇号』(二〇〇一年)
- (注2) 文化審議会『これからの時代に求められる国語力について』(二〇〇四年一月)

要 素	① 説明する	
	授業場面と学習活動	わかりやすく説明するためのポイント
輝きの時間	① 2つの説明文を比較してわかりやすく説明するためのポイントを学習。 ② これまで体験してきた「説明する」場面を想起し、目的や相手にあった説明の様式や方法について学習。	① 相手によって使う言葉を選ぶ ② 目的によって説明する方法を工夫する ③ 説明の順序を工夫する (全体から部分へ、結論を先になど)
社 会	討論や議論の場面で、社会問題や論争問題に対する自分の考えや意見をわかりやすく周囲に伝える。	① 結論から ② 理由を述べて ③ 出典を紹介して ④ 簡潔に
数 学	自分の解決課程や考えたこと、ある法則が成り立つ理由を相手に伝える場面で、図解表現や推論などの方法を用いて相手にわかるように説明する。	① 順序よく ② 筋道をたてて ③ 簡潔に ④ 図解や具体的操作を使って
理 科	① 実験結果からわかることを、実験データを根拠として説明する。 ② 学習内容について理解したことを、レポートや発表の中で、理科の用語や事柄を関連付け、その理由について分かりやすく説明する。	① 客観的なデータを活用して ② 図解を利用して ③ 学習用語を正確に使って ④ キーワードを提示して
英 語	① 説明しようとする事柄について、内容の選択、順序の整理をし、適切な表現を用いて書いたり話したりすること。 ② 自分自身のこと、学校や身のまわりのこと、日本の文化などについて、事実や考えを書いたり話したりすること。	① 適切な内容を ② わかりやすい順序で ③ 適切な表現を用いて ④ 考えや結論を最初に ⑤ 理由や事実を次に ⑥ 形式やパターンに則した記述を
音 楽	① 自分がもったイメージや感じたこと、気づいたことをわかりやすく他の生徒や教師に説明したり、絵や文章で記述する。 ② 自分が作成したレポートを使って、他の生徒にわかりやすく説明する。	① 音楽の諸要素などを絡めた理由を添えて ② 必要に応じて大まかに、または、さらに詳しく。

【資料3】各教科における説明する場面とわかりやすく説明するためのポイント (一部)